
2023 年度 事業報告書

2024 年 3 月

〒202-0022 東京都西東京市柳沢 4 丁目 1 番 3 号



目 次

I. 法人の事業経営	1
II. 施設サービス	8
1. 特別養護老人ホーム「めぐみ園」（ショートステイを含む）	10
2. 養護老人ホーム「東京老人ホーム」	12
3. 軽費老人ホーム「東京老人ホーム泉寮」	14
III. 在宅サービス	16
1. 老人居宅介護等事業「めぐみ園ホームヘルプサービス」	18
2. 居宅介護支援事業「めぐみ園指定居宅介護支援事業所」	20
3. 富士町地域包括支援センター（西東京市から受託）	22
IV. 事務・管理	24
1. 事務室（総務）	24
2. 事務室（経理）	25
3. 経営管理室	26
4. 食事室	27
V. 地域貢献	30

ミッションステートメント

私たちは、キリスト教精神によって、利用者、家族、地域の方々と共に、希望、喜び、人間としての誇りを分かち合って生きるコミュニティの実現を目指します。

私たちは、利用者一人ひとりが人間としての尊厳を保ち、喜びをもって生きることが出来るコミュニティの実現のために、祈り、力を尽くすことが、私たちのミッション（使命）であると信じ、この道を歩みます。

この私たちの歩みに賛同される方々が、一人でも多くこのミッションに参加されることを切に望みます。

主よ、私たちに愛の心を増し加え、歩むべき道筋を示してください。

(1) 事業経営の理念・現状と課題

理事長 徳野 昌博

① 事業経営の理念

東京老人ホームは、2023年12月13日に、創立百周年の記念日を迎え、その当日、予定通りに記念礼拝、記念式典を執り行ないました。来賓を迎え、利用者様、職員皆で祝い、感謝と喜びを分かち合いました。その一つひとつが今後の歩みへの大きな励ましとなるでしょう。この日に向けて長きにわたって、日常業務に携わりつつ準備して下さった職員各位に敬意を表します。本当にありがとうございました。

百周年を祝い、未知の第二世紀へと歩み出した私たちですが、改めて当法人の原点を見つめ直して、歩み続けます。その原点は、関東大震災の被災者の支援活動です。創立者たちは、大震災で被災した人々に、その中でも、「最も弱い方々」に支援の手を差し出したのです。

「最も弱い方々」。それは、身寄りのない高齢者と、親を失った子どもたちです。東京老人ホームは高齢者を、姉妹施設のベタニヤホームは子どもとお母さんたちをと、それぞれ役割を分担して、その支援に乗り出しました。その活動が私たちの「初めの一步」です。この支援活動はやがて組織を伴う事業に拡大し、今日に至っています。

創設に関わった人たちは、「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(『マタイによる福音書』25章40節)とのイエス・キリストの言葉を聞き、その言葉に背中を押されるようにして、自らも被災者でありながら、この事業に着手しました。それ以来、東京老人ホームは、このキリストの言葉と、そこに込められた愛の心を継承し、活動してきました。

これからも、時が良くても悪くても、私たちはご利用者一人ひとりが人間としての尊厳を保ち、喜びをもって生きることが出来るコミュニティ実現のために、祈り、力を尽くして、この道を歩んでいきます。このキリストの愛の心に共感し、共有しつつ、共に働く仲間を私たちは求めています。

② 事業経営の現状

2020年から新型コロナウイルスとその変異株による感染症がまん延し、従来の体制、業務形態を維持するのが困難となる中、その都度、創意工夫しつつ対応してきました。2023年、ようやくコロナウイルスが第5類に移行し、誓言は緩和されましたが、それでもって幕引きとはいかず、現場の緊張は今なお続いており、油断はできません。

コロナ禍で休止していた事業で、活動を再開したものもありますが、感染症には細心の注意を払いつつ慎重に対応しています。これらの活動は、「利用者、家族、地域の方々と共に、希望、喜び、人間としての誇りを分かち合って生きるコミュニティの実現」のためのもので、充実を目指します。

③ 事業経営の課題

私たちの使命は、「利用者の方々が安心して、心豊かに毎日を過ごすことができる環境とサービスの提供」です。これを実現するため、現場に生じる課題については、寄り添って歩み、考え、叶えるよう努力し、利用者、そのご家族、そして、地域の方々と喜びを分かち合うよう心掛けていきます。

(2) 法人の経営報告

2023年度の収支バランスは、未だ収束に至らない感染症の予防対策の費用、物価高騰による光熱費等の支出増がありましたが、省エネ対策を含む東京都などからの補助金、また、各事業所の運営努力や経費の節減、計画の未実施による支出減により概ね目標が達成されました。

新型コロナウイルス感染症は5月に5類に移行し、徐々に地域交流も対面が増え、オンラインなどの新しい方法と合わせて行えるようになりました。一方、長期にわたる活動自粛による利用者の心身レベルの低下は入院などもあり、今後の施設運営には課題となります。

経営の数値については、およそ 36,900 千円の収支プラスとなりました。

(3) 法人の経営事業

① 第一種社会福祉事業（施設事業）

- ア. 特別養護老人ホーム「めぐみ園」 (定員 80名)
- イ. 養護老人ホーム「東京老人ホーム」 (定員 50名)
- ウ. 軽費老人ホーム「東京老人ホーム泉寮」 (定員 100名)

② 第二種社会福祉事業（在宅事業）

- ア. 老人短期入所事業「めぐみ園」(ショートステイ) (定員 10名)
- イ. 老人居宅介護等事業「めぐみ園ホームヘルプサービス」

③ その他事業（在宅事業）

- ア. 居宅介護支援事業「めぐみ園指定居宅介護支援事業所」
- イ. 地域包括支援センター「富士町地域包括支援センター」(西東京市から受託)
- ウ. 高齢者配食サービス事業「西東京市高齢者見守り配食サービス事業」
(西東京市から受託)

(4) 法人の組織 (2024年3月31日現在)

① 役員

理事 6名 理事長：徳野昌博 常務理事：高橋睦
高山由美子 宮本新 関根麻美 井上秀克 (2024年2月26日から)
森下真樹 (2024年2月3日まで)
監事 2名 水野重信 米田節子

② 評議員

評議員 7名 榎純子 宇野正徳 増川明 立石節子
森山亮二 関根裕恵 古財武久

(5) 役員会、評議員会の開催報告

① 理事会

番号	開催日時	出席者		議 事
		理事	監事	
1	2023年 5月30日	5名	2名	(1)2022年度事業報告について (2)2022年度収支決算について (3)社会福祉充実計画について (4)定款の一部変更について (5)理事及び監事候補者の選任について (6)評議員会の開催とその議題について
2	2023年 6月16日	5名	1名	(1)理事長の選任について (2)常務理事の選任について
3	2023年 11月7日	6名	2名	(1)2023年度一般会計収支予算 (補正第1号)について (2)2024年度富士町地域包括支援センター事業計画について (3)就業規則の一部変更について
4	2024年 2月16日	5名	2名	(1)理事退任及び理事候補者の選任について (2)管理者の人事について (3)臨時評議員会の開催とその議題について
5	2024年 3月22日	4名	2名	(1)2023年度一般会計収支予算 (補正第2号)について (2)経理規程の一部変更について (3)2024年度事業計画について (4)2024年度一般会計収支予算について (5)役員賠償責任保険の加入更新について

② 監査

番号	開催日時	出席者		事項
		(監事)		
1	2023年 5月17日	1名		(1) 法人の財産の状況 (2) 業務執行状況
2	2023年 5月17日	1名		(1) 業務執行状況 (2) 施設の運営状況 (3) 施設のサービス状況

③ 評議員会

番号	開催日時	出席者		議事
		評議員	その他	
1	2023年 6月16日	6名	理事 3名 監事 1名	(1) 議事録署名人の選任について (2) 2022年度 事業報告について (3) 2022年度 収支決算について (4) 社会福祉充実計画について (5) 定款の一部変更について (6) 理事及び監事の選任について
2	2024年 2月26日	7名	理事 1名 監事 1名	(1) 議事録署名人の選任について (2) 理事の退任及び選任について

(6) 資産及び会計

① 経営事業の資産総額 [2024年3月31日現在]

資産総額： 1,263,220,190円

これを6月の評議員会の決議を経て登記する。

② 会計決算収支の総計 [2023年4月1日～2024年3月31日]

事業活動：	収入	965,056,582円		
	支出	913,714,422円	収支差額	51,342,160円
施設整備等：	収入	4,159,000円		
	支出	21,784,894円	収支差額	△17,625,894円
その他の活動：	収入	6,431,380円		
	支出	40,147,646円	収支差額	
総計：	収入	975,646,962円		△33,716,266円
	支出	975,646,962円	収支差額	

0円

③ 法人監事による監査の実施： 2024年5月15日（水）

(7) 会議・委員会の開催

① 会議

経営会議	毎月 第 1.3 月曜日
統括長会議	毎月 第 1.3 月曜日
管理者会議	毎月 最終月曜日
在宅部門会議	奇数月 第 2 月曜日

② 定例委員会

安全衛生委員会	毎月 第 4 火曜日
防災委員会	毎月 最終木曜日
広報委員会	毎月 第 2 火曜日
ボランティア委員会	4. 7. 10. 1. 3 月 第 4 月曜日
感染症対策委員会	5. 8. 10. 12. 2 月 第 3 金曜日
第三者委員会（苦情・事故）	6. 12 月 第 1 火曜日

③ その他

建替検討プロジェクト	毎月第 3 木曜日
創立百周年記念プロジェクト	毎月第 4 金曜日
地域取組検討委員会	毎月第 2 金曜日
片付け支援事業	毎月第 3 火曜日
いきいきさんデー実行委員会	原則 第 1.3 金曜日
ぽぽたんカフェ検討会	毎月第 1 木曜日
合同行事委員会	随時
ICT プロジェクト	随時

※上記、定例の会議および委員会についてはオンライン等を活用し適宜行いました。

Ⅱ 施設サービス

(1) 共通事項

① 情報開示

法人発行の季刊誌「いきいきまち」やホームページ、介護サービスの公表制度（インターネット）、東京都が推進する「働きやすい福祉の職場宣言」、第三者評価機関による評価結果報告などにより関係する情報を公開しました。また、利用者やご家族に対しては、各施設からの広報誌を通じて様々な法人や施設の情報をお伝えしました。

② 苦情解決

苦情・事故に関する報告を、年2回第三者委員へ行い、対策や対応に関する助言をいただき、再発の防止に役立てました。

日常における生活の様子やケアに関する情報を、ご家族等と共有するとともに、利用者懇談会や、意見箱などで意見をお聞きし、把握した課題を共有し、これらの情報を踏まえたより良いサービスの提供を行いました。

③ 職員研修

感染防止対策を念頭に、ウェブによる法人外主催の研修へ参加や、内部研修の実施により職員個々の資質向上と組織力の向上に取り組みました。

④ 虐待防止の取り組みと身体拘束等の適正化

各施設の虐待防止・身体拘束に関する指針に基づき、委員会の開催、職員研修等を実施し、利用者の尊厳が守られるよう組織として取り組みました。

⑤ 施設の共通課題への取り組み

感染症対策や各種行政手続きなど施設間で共通する課題に対し、部門で協議し対応しました。

1. 特別養護老人ホーム「めぐみ園」(ショートステイを含む)

(1) 運営報告

利用者お一人おひとりが、その方らしい生活を送る事を大切に支援しました。

とりわけ、めぐみ園が利用者にとっての終の棲家であるという視点に重点を置き、日常のケアの質の向上に取り組みました。

(2) 課題と対応

① 終の棲家としてのケアの実施

最期までその方らしい生活を送れるよう利用者及びご家族の思いを尊重した支援をしました。

② 日常的な支援の在り方の見直し

おむつ類について、外部講師を招き、研修を行いました。データに基づいた備品の選定、排泄介助を行う際の細かいポイントについてアドバイスを貰いました。

③ 医療をはじめとする他職種との連携の強化

各専門職が連携して日常の生活や健康への支援を実施しました。とりわけ、栄養、経口維持、自立支援において、介護、医療、栄養が共有する計画を基に支援にあたりました。

④ 尊厳・権利擁護の視点に立ったケアの実施

苦情や要望については、その都度速やかに対応しました。また尊厳や権利擁護について、部署内研修等で学び、利用者の立場に立ったケアを実践しました。

⑤ 地域とのつながり・地域貢献

感染予防を踏まえ、地域交流行事に参加しました。また、小学校において高齢者について学ぶ授業の講師や高齢者疑似体験の授業を行う他、西東京市より依頼を受け、市民の方へ介護講座を行いました。世代を超えて介護の啓発に取り組みました。

⑥ リスクマネジメントの取り組み

利用者の安全な生活を支えるため、感染症予防研修や事故防止研修等を行ない、対応方法の標準化を図るなど、スキルアップに繋がりました。

⑦ 職員の能力の向上

個々の職員に合ったOJTの実施のための部署内研修を行い職員の能力向上に取り組みました。その他、課題に応じた外部研修に参加しました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

利用者やご家族からの苦情等について都度対応し、再発防止に取り組みました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0件	3件	0件	5件	8件

② 事故の再発防止に対する取り組み

軽微な事故についても報告し、居室担当を中心に事故対策の振り返りを行い、再発防止に努めました。また、年2回の研修については、実技や事例をもとにした事故防止対策の検討等、実践的な研修を行い、スキルアップに繋がりました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	147件	32件	257件	59件	495件

(4) 年間行事報告

年	月	内容
2023	5月他・毎月	変わり湯（菖蒲、アジサイ湯、柚子）・お誕生会
	4月・5月	園芸（5月～11月）お買い物イベント『MEGU HOUSE』（5月）
	7月	七夕飾りつけ・わんわん村（7月）・おやつイベント（7月・9月）
	9月	敬老お食事会・
	10月・11月	お買い物イベント『MEGU HOUSE』（10月）・わんわん村（11月）
	12月	クリスマスランチ・創立100周年行事
2024	1月・2月・3月	2月おやつイベント（2月）

(5) ショートステイサービス

高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるようにサービス提供し2022年度に比べ延べ利用人数が増加しました。緊急ショートステイ事業においては利用者やその家族関係者の状況を把握し行政等と連携を取りながら利用者の生活再建の一助となるよう努めました。新型コロナウイルス感染予防のためにも、入所時の体調確認を徹底し、利用者自身が安心して生活できる環境を設けました。

(6) 実習生

新型コロナウイルス感染対策し、社会福祉士実習の受け入れを行いました。また、大学の授業の一環として学生に来てもらい施設にて生活相談員が講師を務めました。

2. 養護老人ホーム「東京老人ホーム」

(1) 運営報告

近年、認知機能の低下が見られる方の入所が増えてきており支援における新たな課題となっております。また入所者の4割は介護認定を受けております。ホームで生活する利用者が有する能力を發揮しその方らしく生活できるように努めました。

(2) 課題と対応

① 個別の生活課題に寄り添った支援

認知機能の低下が見られる利用者について、銀行や手続き等に同行し自立支援を念頭に置いた支援を実施しました。

② セーフティネットとしての役割の遂行

地域公益活動として契約による入所の骨組みを作り運用の是非を検討しましたが行政との連携等、実施にあたっての課題が多く取りやめとしました。虐待等早急な入所を要する相談に対して速やかに対応をしました。

③ 新型コロナウイルスへの対応

本年度も発症者が出たことを想定した初動訓練を実施しました。併せて事業継続計画についても職員と共有をしました。利用者の生活の質の視点から近隣の大型衣料品店へ利用者をお連れする買い物ツアーや外食会を実施致しました。

④ リスクマネジメントへの対応

服薬管理が必要な利用者が増加していることより、薬に関する事故防止として署内研修を実施し事故防止に努めました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

利用者懇談会を小グループで開催し、利用者が意見を言いやすい環境づくりを行いました。日常の中から利用者の声を拾っていけるようにこれからもコミュニケーションを大切にしていきます。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0件	2件	0件	1件	3件

② 事故の再発防止に対する取り組み

服薬に関する事故については署内研修の実施、配薬の役割の見直し等を実施しました。自己管理されている方の飲み忘れ等残された課題について次年度に取り組んでいきたいと思っております。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体 に係る事故	その他	合計
事故件数	29件	13件	0件	1件	43件

(4) 年間行事報告

年	月	内容
2023	4	利用者懇談会
	5	しょうぶ湯・春のお食事会・ティールーム・ひがしふしみ保育園交流会
	6	衣類購入ツアー
	7	七夕飾り・大掃除・ティールーム
	8	ティールーム
	9	利用者懇談会・敬老祝賀式
	10	介護予防教室・外食ツアー・利用者懇談会
	11	ティールーム・大掃除・ひがしふしみ保育園交流会・実りの秋のお食事会 利用者懇談会
	12	ゆず湯・クリスマスランチ・クリスマス交流会（三鷹福音教会）
2024	1	新年会
	2	ティールーム
	3	利用者懇談会・介護予防講習会・お楽しみランチ

(5) 地域交流

保育園や近隣の教育機関との交流についてはオンラインの他中庭を活用して対面で実施し直接触れ合うなかで世代間交流を図ることができました。

(6) 医務関係

新型コロナウイルスについては5名感染者が発生しましたが感染が拡大することなく最小限に留めることが出来ました。ノロウイルス罹患者が複数名発生いたしました。いずれも重症化することなく経過いたしました。

3. 軽費老人ホーム「東京老人ホーム泉寮」

(1) 運営報告

コロナ感染症も5類になり、創立百周年の記念日を皆でお祝いし、法人の理念に基づいた「お一人おひとりが地域の一員としてその方らしく暮らせるように」という願いに向け、徐々に活動も増える一年となりました。

感染予防対策は「標準予防措置策」として継続し、お互いの笑顔を感じながらの交流も増えています。体力低下による怪我には注意をしつつ、新しい入居者も増え活動も広がり、それぞれ皆さまがその方らしく過ごしていける日々になってきました。

(2) 課題と対応

① 感染予防に向けた取り組み

コロナ感染症5類引き下げを受け、段階的に感染対策の緩和を図りました。食堂での食事を再開し、オンラインを活用し実施していたクラブや行事は分割開催など工夫しつつ徐々に対面化を図りました。下期、コロナ以外の感染症も発生し対策しました。

② 新しいチームワークの形成（業務分担と役割の明確化）

居室担当が担う役割を拡充し、サービス担当者会議にも主体的に参加しました。次世代のリーダー育成も見据え、各々が業務に主体的に取り組めるように役割分担の内容を見直しました。更なる平均化に向け各々の業務判断力向上が課題です。

③ 地域の一員としての生活支援

近隣の学校など地域資源と協働し、利用者がより地域との繋がりを持って暮らせるよう支援を行いました。地域サロンやイベントの紹介、保育園や小学校との定期的な交流、法人によるひまわりの会と連動した花づくりなどに取り組みました。

④ 利用者と職員の安全への取り組み

事故については原因をミーティングで話し合い対策から事後評価まで居室担当を中心に実践しました。また急変時対応に向けAED（心肺蘇生）に関する研修を実施しました。今後はアセスメント機会を活かした早期介入の判断・評価が課題です。

⑤ 新たな記録システムの活用

法人のネットワークを用いたシステム上のアプリを用いて記録のICT化に努めました。情報量が多い中、検討事項が置き去りにならないように電子会議室の活用方法など部署内で検討しました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

共用設備（飾り棚、ゴミ箱、洗濯機、掃除機）について、利用者から苦情・要望などがありましたので検討し、運用を見直しました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	3件	2件	3件	3件	11件

② 事故の再発防止に対する取り組み

転倒・転落事故は、特定の利用者に偏る傾向が認められました。再発防止策を取りながらも、本人、家族や外部サービス等の関係者の話し合いにより検討しました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	27件	6件	5件	0件	38件

(4) 年間行事報告

年	月	内容	
2023	4	イースターメッセージ、イースター礼拝、お花見の会（Web鑑賞）、映画鑑賞会	
	5	国内旅行（京都旅行 Web鑑賞）	
	6	映画観賞会、ひがしふしみ保育園交流会（わらべうた・伝承遊び）	
	7	七夕飾り、納涼会（全国の花火大会鑑賞）	
	8	作品展準備（合同作品作成）、西東京市健診	
	9	作品展出展、敬老祝賀メッセージ、敬老祝賀式、健康勉強会、映画鑑賞会、 介護予防講演会 ひがしふしみ保育園交流会	
	10	いきいきさんデー	
	11	利用者懇談会、保谷2小音楽会鑑賞、クリスマス飾りつけ	
	12	クリスマスランチ、クリスマス礼拝、100周年創立記念礼拝 正月飾り	
	2024	1	ぜんざいを楽しむ会、
		2	ニューイヤーコンサート鑑賞（ウィーンフィル）
		3	ひがしふしみ保育園卒園プレゼント作成 同保育園ひな祭り会参加、追悼礼拝

(5) 法人内養護老人ホームとの連携

養護・軽費で協力し、保育園交流事業では、直接交流できる機会を再開しました。

(6) 介護予防への取り組み

心身機能維持のための取り組みとしては、一部オンラインを活用しつつも、直接利用者同士や講師が対面で集まれる機会も設け、介護予防活動を実施しました。

Ⅲ 在宅サービス

(1) 共通事項

① 職員の資質向上

部署ごとに計画的かつ、職員の能力に合わせた研修を計画的に実施し、資質の向上に取り組みました。

② ケアチームの連携強化

利用者の望む生活に向け、医療・介護の細やかな連携を図り支援を行いました。また、感染症などの情報についても関係機関と連携を図り、迅速な対応に繋げることができました。

③ 苦情解決

苦情や日々のサービスに関する要望などに対して、人権擁護と利用者本位のサービス提供を鑑み、迅速かつ早期解決に努めました。

④ 虐待防止の取り組み

高齢者の尊厳保持、人格尊重が達成されるよう高齢者虐待防止研修を実施し、虐待の未然防止に取り組みました。

1. 老人居宅介護等事業「めぐみ園ホームヘルプサービス」

(1) 運営報告

利用者・ご家族の心身の状況を踏まえ、その方らしい生活が実現できるよう可能な限り利用者本人の自立と生活機能の維持の視点でサービス提供を行うとともに、介護支援専門員やその他の関係機関との連携を図り、住み慣れた在宅の生活維持に向けて支援を行ってまいりました。

(2) 課題と対応

① 情報共有及び研修機会の確保

新型コロナウイルス等の感染下においても、主に登録ヘルパーへの定期的な情報共有及び研修について、オンラインを併用しながら計画通り実施することができました。

② 保険外自費サービス導入

高齢者が抱える多様なニーズに対して、自費サービスを提供したことにより、生活充足度や生活の質向上に繋げることができました。

③ サービス提供の継続性

新型コロナウイルス感染症に職員が罹患した場合でもサービス提供及び事務業務が継続できるよう、各業務に対し複数で関わる体制を構築し、業務対応を行いました。

④ 法人内各部署との連携強化

法人内施設利用者に対し、関係部署間で細やかな連携を図ったことで、迅速にサービス提供を行うことができました。新型コロナウイルスに関する情報についても迅速な連携を図り適切な対応を図ることができました。

⑤ リスクマネジメントの徹底

本年度は、利用者宅へ移動中の自転車転倒事故が1件発生しましたが幸い大きなケガには至りませんでした。労働災害に繋がる大きなリスクとなっています。引き続き次年度も、そのリスク低減対策を検討、実施していきます。

(3) 苦情・事故報告

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0	0	0	0	0

① 事故の再発防止に対する取り組み

全職員が参加するミーティングにて、事故防止研修を実施しました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に 係る事故	その他	合計
事故件数	1	0	1	5	7

(4) 年間報告

年	月	内容
2023	7	西東京市訪問介護分科会（看取りケア研修）
2023	11	西東京市訪問介護分科会（認知症ケア研修）
2024	2	西東京市訪問介護分科会（精神疾患に関する研修）

※ヘルパーミーティング及びサービス提供責任者会議については毎月実施

※個別研修については、年間計画に則り実施

※武蔵野市主催の訪問介護分科会は年間通して中止

2. 居宅介護支援事業「めぐみ園指定居宅介護支援事業所」

(1) 運営報告

利用者の意志及び生き方を尊重し、常に利用者の立場に立って可能な限り自立した生活と残存能力（介護予防）をいかせることを念頭に支援いたしました。

(2) 課題と対応

① 利用者の自立支援、自己実現

利用者、ご家族の望む生活と生活課題を一緒に考え、残された能力（強み）をいかしていく視点で課題分析を行い生活の質の向上に向け支援を行いました。それまでの歴史や背景の理解に努め、『その人らしい』ケアプランになるよう目標を一緒に考え自立支援を行いました。

② 介護支援専門員の資質・専門性の向上（ケアマネジメントの充実）

自立支援の観点から幅の広いニーズを導き、その人らしい『真のニーズ』をケアプランに反映できるよう、アセスメントの重要性の学びを深めました。作年度はケアプラン点検を受審しました。その中で地域の力（インフォーマルサービス）をより一層ケアプランに反映するようご助言をいただきました。今年度も地域との連携・学びを深めていきます。

③ 地域の行政・医療・介護・社会福祉関係機関との連携強化

在宅の看取り、医療依存度が高い利用者に適宜対応できるよう、医療連携シート活用に加え、連絡を密に行い入退院時にも備えました。又、虐待ケース、家族支援が必要なケースが増加している為、包括支援センター、市役所、並びに関係機関との連絡の強化に努めました。

④ 法人内施設との連携強化

法人内の各施設サービス窓口を通じ、情報の共有と連絡調整を行い重度化に即した支援を行いました。新型コロナウイルス等感染症に対する情報共有を迅速に行いました。

⑤ リスクマネジメントの徹底

利用者が安心して在宅での生活を送れるよう、感染症予防や、職員の安全衛生のリスクマネジメントを行ってきました。業務においては、在宅サービスにおける関係法令の周知徹底を図りました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

速やかに情報を収集したうえで対応し、調査、検討、共有し再発防止に努めている。利用者・ご家族の言葉や表情を読み取り丁寧な対応につながるよう今後も努めます。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0	0	0	0	0

② 事故の再発防止に対する取り組み

施設ご利用者においては、同サービスに複数の事業所が支援するケースが増加している。各関係者と情報共有を密に行い法令順守の徹底を図っていく。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に係る事故	その他	合計
事故件数	0	0	0	1	1

(4) 年間報告（年間回数）

- * 西東京市主任ケアマネ医療・介護連携部会（12回）
- * 西東京市南部圏域事例検討会（6回）
- * 西東京市中部圏域事例検討会（7回）
- * 西原包括支援センター主催・若年性認知症研修（1回）
- * 西東京市総合事業説明会（1回）
- * 西東京市医療・福祉の連携部会研修（1回）
- * 西東京市居宅分科会（4回）
- * 西東京市管理者研修（1回）
- * 西東京市ケアプラン点検（1回）
- * 西東京市認定調査員研修（1回）
- * 西東京市新人ケアマネ研修（2回）
- * 西東京市BCP研修（1回）
- * 東京都国保連合会主催BCP研修（1回）
- * 緑寿園主催・高齢者虐待研修（1回）
- * 西東京市事業所連携部会研修（1回）
- * 特定事業所加算合同事例研修（1回）

(5) 特定事業所加算

加算事業継続の要件である介護支援専門員実務研修の実習生の受け入れを再開した（1回）。他法人との事例を通じた研修においては5事業所参加にて対面にて開催しました（1回）。

3. 富士町地域包括支援センター（西東京市から受託）

(1) 運営報告

富士町地域包括支援センターは高齢者が住み慣れた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を継続できるよう、心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行い、保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援致します。2023 年度においても、西東京市との委託契約に基づき、業務を実施しました。

(2) 事業内容

① 総合相談支援業務

地域の高齢者に関するさまざまな相談を受け、実態把握の上、適切な制度・サービスにつなぎ、継続支援を行いました。年間の相談件数は 4558 件となっています。相談内容は介護保険サービス、医療、高齢者虐待、認知症、高齢者福祉サービス、状況確認、地域参加の順に多くなっています。特に、医療、高齢者虐待、認知症に関する相談が増えており、迅速な対応を行いました。

② 権利擁護業務

支援者や民生委員等から多数の相談がありました。年間 21 件の虐待ケースに対応しています。その他、権利擁護や消費者被害に関する支援を行いました。

民生委員や通所介護事業者に対して高齢者虐待に関する講座を実施しました。

③ 包括的継続的ケアマネジメント業務

ケアマネジャーの実践力向上に向け、後方支援、圏域別事例検討会、交流会を行いました。

延べ 82 件のケアマネジャー支援を行いました。

④ 介護予防ケアマネジメント業務

要支援 1・2、事業対象者の認定を受けた利用者を対象とするケアプラン作成・給付管理を行いました。2023 年度のケアプラン数は 1949 件となっています。

短期集中予防サービス通所型サービス C の拡大実施として、所内では 26 件のプラン作成をしています。

⑤ 地域ケア会議

地域ケア会議Ⅰを 5 回（課題解決型 3 回、自立支援型に事例提出 2 回）実施しました。専門職等による地域ケア会議Ⅱを 1 回開催、「高齢者を消費者被害から守るために地域としてできる事を考える」をテーマに取り組みを検討しました。

⑥ 認知症総合支援事業

認知症サポーター養成講座を7回、隔月で家族会を実施しました。認知症カフェは3団体の運営を支援しました。また、チームオレンジきららの立ち上げに向け、認知症ボランティアとの意見交換会を5回実施しています。

⑦ 関係事業との連携

生活支援コーディネーターや、ささえあい訪問協力員から相談のあった高齢者の支援を行いました。ささえあい訪問時に不在だった高齢者の安否確認を行っています。協議体で抽出した地域課題「買物支援（移動販売）」の取り組みに協力しました。

⑧ 一般介護予防事業

地域のサロン活動の継続支援、ACP やいきいき百歳体操の普及啓発を行いました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

高齢者虐待対応において、養護者への説明を最大限行っていきます。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0	1	0	0	1

② 事故の再発防止に対する取り組み

FAX 送信時など、個人情報の取り扱い時は複数職員で確認していきます。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に係る事故	その他	合計
事故件数	0	0	0	2	2

(4) 年間報告

全 392 件。うち、会議等 233 件、運営・講師等 51 件、その他の普及啓発活動 60 件、研修受講 41 件となっています。高齢者福祉サービス調査表作成は 22 件でした。

(5) その他

国立看護大学校の実習生を 4 名受け入れました。

IV 事務・管理

1. 事務室（総務）

(1) 運営報告

創立 100 周年を迎えた昨年度も、法人創立から変わらぬ理念「愛～人を大切に思う心～」を継承しつつ、時代の変化に柔軟に対応しながら職員が働きやすい環境の整備に向けて、法人・事業所の円滑な経営の下支えが行える取り組みを実施しました。

(2) 課題と対応

① 働きやすい職場環境整備

産前産後休暇や育児休業を取得する職員に対して、丁寧な説明と面談を通じて、働きやすい環境を整えました。

また、事業主行動計画に基づいて、育児・介護休業の制度について一般職員向けの研修を行い、行動計画期間 2 年間の目標を達成しました。

今後もデータに基づいた課題の発見や、職員向けの情報提供などを通して、一歩ずつ前進していきます。

② 職員の採用と定着の促進による人材確保

創立 100 周年にあたり法人のホームページを全面リニューアルしました。これに伴い、求職者が採用情報を辿りやすいよう動線を確認する他、訴求効果を高めるために文章表現の見直しを行い、法人の強みをよりアピールできるよう工夫しました。

また、SNS プロジェクトを立ち上げて法人の Instagram を開設し、とりわけ学生に向けて法人の雰囲気や職員の働く姿等を積極的に配信する取り組みを始めました。これにより、学生の閲覧や外部の就職合同説明会への参加者増にも繋がっています。また、Instagram 開設の副次的効果として、職員の法人理解や他部署に対する理解向上にも繋がっています。

若年層から高年齢層のあらゆる世代が活躍できる仕組み作りの検討は、世の中の動向を見据えながら引き続き行って参ります。

2. 事務室（経理）

(1) 運営報告

法人全体の収支状況を管理し、予算執行及び財産管理を適切に行い、良質なサービス提供ができるように努めました。

(2) 課題と対応

① 物価高騰・価格高騰対策

消耗品等の品目や購入先の見直しを行いました。

また、購入時期を値上げ前に設定し、一括購入することで価格交渉することができ、経費削減へとつなげました。

② 電子帳簿保存法改正への対応

収益事業のみ該当の為、対応などは特にありませんでしたが、今後も引き続き情報収集に努めます。

③ 予算と実績の管理

各施設、事業所の予実管理を行い、経営課題を明確にし、収支状況の改善に取り組みました。

3. 経営管理室

(1) 運営報告

収入と支出のバランスを注視しながら、施設運営に必要な設備機器の更新を、優先順位を踏まえ実施しました。複数業者による見積比較、自主修繕の取り組み、割賦やリース契約による資金調達等により、効率的な資金活用に努めました。

(2) 課題と対応

① ナースコールの更新（3～5階：4・5階 PHS 呼出機能追加）

感染症流行による工事スケジュール調整に苦慮しながら、老朽化した3～5階のナースコールを更新しました（割賦）。4・5階のナースコールにも「PHS 呼出機能」を追加し、職員の業務負担軽減を図りました。総額 9,489 千円（電話接続工事含む）

② 業務用エアコン更新の是非判定

クールネット東京の助成金を活用し、老朽化した業務用エアコンを、高効率の機器に更新しました。「高額な更新費用」を圧縮し、電気料金が高騰する中でも、使用電力を大幅に削減することで、電気料金の急激な負担増を抑えることが出来ました。総事業費 7,186 千円（エアコン 5,954 千円、LED1,232 千円） 助成金 4,009 千円

③ インボイス及び改正電子帳簿保存法への対応検討

インボイス施行開始の2023年10月1日の段階では、免税事業者であったため「適格請求書」の登録申請はしない判断をしました。尚、2024年4月1日からは、消費税の課税事業者となるため、2024年2月に、「適格請求書発行事業者の登録申請書」を税務署へ提出し、4月より「適格請求書発行事業者」となりました。

改正電子帳簿保存法については、経理と対応の要否を検討しました。

④ LED 照明の更新

照明器具についても、ロビーやピロティ、屋外灯、3Fエレベーターホール、各施設のトイレ周辺等、「点灯時間が長く、省エネ効果がある箇所」を、クールネット東京の助成金を活用し、LED照明に更新しました。省エネ効果の高い機器への更新により、電気使用量を削減し、地球温暖化防止対策（CO2削減）に努めました。

⑤ 屋上平場防水シート張替え・ルーフバルコニー防水工事の要否検討

設計士に相談し、屋上平場の防水保護シートの劣化状況・緊急度を調査しました。調査中に、避雷針ケーブルを屋根にとめる「金具」が、複数箇所を外れていたため、修理を行いました。ルーフバルコニーの劣化状況も確認し、屋上防水工事とあわせて改修するための見積もりを取り、工事費用を把握・素案を作成しました。

4. 食事室

(1) 運営報告

栄養バランスのとれた食事作りを心掛けるとともに、お食事から季節を感じていただけるよう、旬の食材を取り入れた献立作りに取り組みました。また、利用者お一人おひとりの状態に合わせた食事を提供することで、健康の保持増進に努めました。

配食サービスにおいては、おいしく安全な昼食を定期的にお届けし、当該高齢者の健康状態の把握及び安否確認を行うと共に、孤独感を緩和することで、住み慣れた場所で安心して暮らす事の出来る環境作りを支援しました。

(2) 課題と対応

【施設】

① 利用者に喜ばれる食事の工夫

季節ごとに行事食を取り入れ、食事から季節を感じていただけるよう取り組みました。利用者に好評な麺類を多く取り入れ、メリハリのある献立作りを努めました。

② 多職種連携

多職種で連携・情報の共有を行い、「栄養ケア」・「褥瘡ケア」・「経口維持への取り組み」に多角的な視点から意見し、課題の改善に取り組みました。

③ 新しい生活様式の構築

各施設、それぞれの感染症対策を踏まえた上で、行事食等様々な献立をコロナ禍前と同様に提供する事が出来ました。また、感染症が発生した際は迅速に、使い捨て食器等を使用した「蔓延防止対策」を実施しました。

④ 食べやすい食事の提供

食材（骨なし魚等）・切り方・調理方法（スチームの活用）の変更を行い、嚥下・咀嚼能力が低下した利用者でも、見た目を変えず食べやすい食事の提供に努めました。

【配食サービス】

① 安否確認について

「継続的に訪問し安否確認をする配食サービス事業」を通じて、住み慣れた住まいでの生活を安心してすごして頂けるよう努めました。

② 利用者状態・ニーズの把握

西東京市・ケアマネジャー・ご家族と連携し、利用者の状態の把握に努め、利用者個々人の状態に合わせた食形態・制限食・代替食の提供を実施しました。

③ 個人情報保護について

パソコン・携帯電話・メールはパスワードによるロックを使用、配達員が持ち歩く個人情報は最低限にし、利用者等の個人情報の保護に取り組みました。

(3) 苦情・事故報告

① 苦情の再発防止に対する取り組み

各施設職員と連携をとり、利用者の状況・ニーズの把握に努め、苦情の発生防止に取り組みました。

区分 件数	利用者間	サービス提供	設備	その他	合計
苦情件数	0件	0件	0件	0件	0件

② 事故の再発防止に対する取り組み

過去に発生件数が多かった異物混入事故の対策を日々実施し、再発防止に取り組みました。定期的に調理員へ対策を指導することで、事故防止への意識を高めました。

区分 件数	転倒・転落	服薬等	その他身体に係る事故	その他	合計
事故件数	0件	0件	0件	4件	4件

(4) 年間報告

年	月	内容
2023	4	配達員研修（自転車安全講習・マナー・モラル・コンプライアンス）
	7	感染症研修
	12	感染症研修

(5) 会食の実施

例年、閉じこもり防止や孤独感を緩和する目的で、配食サービス利用者をホーム別館にお迎えし、会食を実施していましたが、新型コロナウイルス感染症等の感染状況を踏まえ、本年度は実施を見送りました。

(6) 新しい地域への配達

本年度より南町、向台町を追加で担当することになりました。前事業者・市から情報を引き継ぎ、滞りなくお弁当の提供を実施することが出来ました。

V 地域貢献

(1) 活動内容

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、外部と直接的な交流を伴うイベントは控えております。その中で、法人独自の取り組みを検討し、出来る範囲で地域との連携を図りました。

① 片付け支援事業

高齢者の溜め込みと孤立、制度の狭間への取り組みです。片付け支援を通し、サービスにつながる事で安全な生活環境を維持し、地域のネットワークの再構築を図る事を目的としています。2023年度は2件の支援を実施しました。支援を通して、介護保険サービスの利用や支援者と関係性の構築につながっております。また、支援者より相談を受けましたが、本人や家族同意が得られず支援に至らないケースもあり、溜め込み問題への介入の難しさを知る機会となりました。

② いきいきさんデー（毎年10月、日曜日）

高齢者福祉の情報発信を軸に、地域との交流を図るお祭りイベントです。地域の学生による演奏や、団体による出店等を行い、地域とのつながりを大切にしています。2023年度は「笑顔の輪・幸せの輪・支え合いの輪・みんなで地域の輪を広げよう」をタイトルに、関係機関とオンライン、一部対面で交流を図りました。

国際文化理容美容専門学校の生徒による対面でのネイルサービスを実施しました。オンラインで近隣の保育園や小中学校、高校、国際文化理容美容専門学校、法人からの活動報告を行い、シンポジウムとして「これからの地域の連携に期待する事」等をテーマに意見交換しています。利用者107名、職員31名が参加しております。オンラインがメインではありましたが、地域のつながりを実感出来るイベントとなりました。

③ ぽぽたんカフェ（毎年5月、土曜日）

職員がカフェスタッフとなり、カフェを通じて利用者と家族、地域の方へのおもてなしをします。地域の学生団体による生演奏も行っております。

2023年度も中止とし、2024年度の実施に向け、委員会で内容を検討しました。

④ 地域への取り組み（ひまわりの会）

地域との関わりが少ない高齢者が、自信をもって主体的に参加できる場として、ひまわりの会が2023年9月よりスタートしました。押し花を使用した作品作りを行い、葉やクリスマスカード、保谷第二小学校の卒業式に花文字の作品をプレゼントしました。卒業間近の6年生に直接渡す贈呈式の間機も作っていただきました。

⑤ 西東京市社会福祉法人連絡会との連携

「住みやすい安心して暮らせる地域」をスローガンとした上記連絡会の会員として事業に協力、フードドライブ、市民祭りに参加しています。

⑥ その他、地域との連携

保谷第二小学校に出向き、高齢者疑似体験と車いす操作体験の授業を行いました。「あんぜんの日」に参加、防災に係る体験学習として、包帯処置や車椅子介助の授業をしました。また、「花プロジェクト」の連携機関として、児童が育てた花を施設利用者が頂く等、交流を図っております。